つながる

学校と家庭の学び

児童の振り返りと保護者通信で家庭学習習慣が定着

福岡県川崎町立池尻小学校

川崎町立池尻小学校では、保護者の協力を得ながら学力向上に取り組んでいる。子ども自身に生活の課題を自覚させる「いきいき池小っ子カード」や、取り組みの様子を保護者に細かく伝える「学力アップ通信」などにより、保護者の協力意識が高まり、家庭学習習慣も定着しつつある。

「学力アップ通信」で家庭学習習慣化を呼び掛ける

川崎町立池尻小学校は、福岡県のほぼ中央、かつての筑豊炭田の中心地にある。人懐こく、元気な子どもが多いが、学力面で課題を抱えていた。２００８年度、川崎町が町内の小・中学校の学力向上支援を始めたのを契機に、家庭学習の習慣化に取り組んでいる。辻秀志校長は、そのねらいを次のように話す。

「基礎的な学力を身に付けさせるためには、家庭での学習習慣の定着が必要です。その土台となる規則正しい生活習慣を家庭の協力を得て定着させることが不可欠だと考えました。先生方も同じ思いでした」

生活習慣改善のための取り組みの柱が、「いきいき池小っ子カード」（図1）だ。「10時までにねる」「7時までに起きる」「朝食を食べる」「家庭学習」など、毎日指導している全学年共通の7項目について、子ども自身が毎月最初の1週間の生活を採点する。就寝・起床時刻は学年ごとにグラフ化して廊下に掲出し、子どもの意識を高めている。

「この取り組みは先生方のアイデアから始まったもので、日々のねばり強い指導によって成果が表れています。あくまで子ども自身に生活の課題を自覚させるのが目的なので、カードは家庭には持ち帰りません。保護者には『学力アップ通信』（図2）でねらいや結果を伝えています。そのため、カードの記入期間には家庭での声掛けが多くなるようです」

「学力アップ通信」は、学力向上や生活習慣改善に特化した学校通信だ。通常の学校だよりとは別に月1回発行し、学校の取り組みやそれに対する子どもの様子、「全国学力・学習状況調査」の出題内容や結果などを紹介する。

10年度は、「学力アップ通信」を使って家庭学習についてのアンケート調査を実施した。質問は「学習内容について子どもとどんな話をするか」「家庭学習について子どもとどんな約束をしているか」などで、他の保護者の参考になりそうな回答は、次号以降の通信で紹介する（図2）。学校からの要望ではなく同じ保護者の声によって、学力向上に対する意識を高めようというねらいだ。

図1　「いきいき池小っ子カード」

項目ごとに、達成できれば○、出来なければ×を書き込む。○を一つ1点として採点。振り返りのコメントを記入する。「テレビ見ないデー」は午後8時以降テレビを見ない日で、習い事などの都合に合わせて、1週間の特定曜日を子どもが自分で決める。

「目的はテレビを見せないことではなく、勉強や読書に充てる時間を増やすことです」（藤川先生）

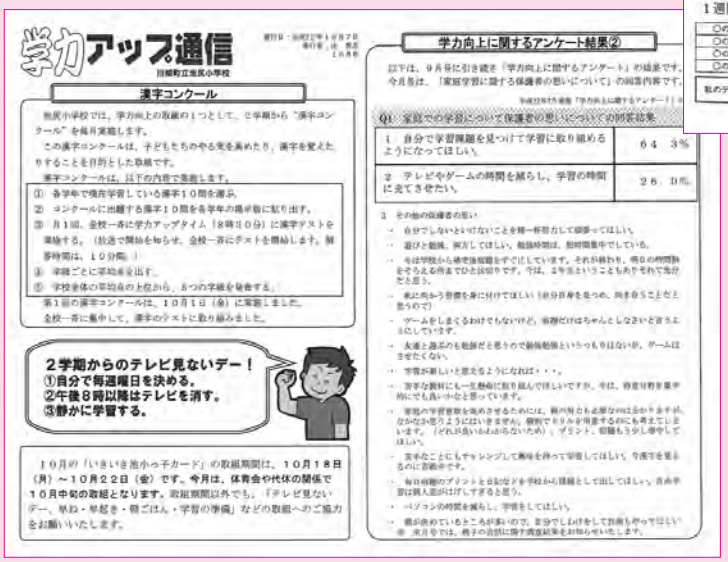
「いきいき池小っ子カード」は、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトから加工可能な形式でダウンロード出来ます

http://benesse.jp/berd/
→情報誌ライブラリ（小学校向け）

図2　「学力アップ通信」

「学力アップ通信」で行った家庭学習に関する保護者の意識調査では、次のような声が寄せられた

- 「宿題は必ずさせています」
- 「家庭で教材を用意しようとしても、どれが子どもに合っているのかが分かりません。学校のプリントや宿題をもっと増やしてください」
- 「今は得意科目の勉強から学ぶ喜びを知ってくれれば良いと思うものの、いずれは苦手科目の勉強にも積極性を持ってほしい」



同校では校区の住民に向けても学校だよりを発行し、取り組みの概要を伝えている。

「川崎町で保護者の協力を得るには、本校の取り組みに対する地域全体からの理解が不可欠です。校区の区長さんに学校だよりを配布し、全家庭に回覧してくれるようお願いしています。また、私自身も定期的に校区の会議に出席し、交流を深めています」（辻校長）

毎朝の「学力アップタイム」で基礎を定着させる

同校では学力向上のために、家庭での取り組みだけでなく、朝学習や校内研究の充実にも力を注ぐ。毎朝20分間、全学年で行う朝の学習時間「学力アップタイム」では読書や作文、川崎町内すべての小学校で使われているベネッセのドリルを活用した漢字と計算の練習などに取り組んでいる。内容は曜日ごとに決まっているが、学力調査などで課題が見付かった場合、「強化月間」として1か月間、漢字と計算の練習を集中的に行う。教務主任の藤川和久先生は、ドリルの活用例を次のように話す。

「漢字は月曜日に練習し、金曜日にテストをしています。新出漢字はまず授業中に担任が教えた上で、ドリルに取り組みます。更に、授業の空き時間や宿題を利用して繰り返し練習させることで、基礎の定着を図っています」

宿題には、国語と算数の復習用プ

SCHOOL DATA

福岡県川崎町立池尻小学校

◎1951（昭和26）年開校。2008年度より、川崎町の方針を独自にアレンジしながら学力向上と家庭学習習慣化に取り組む。「学力アップ通信」などを通して、保護者への呼び掛けを積極的に行っている。

校長　辻　秀志先生
児童数　248人
学級数　13学級（うち特別支援学級2）
所在地　〒827-0002
福岡県田川郡川崎町池尻923
TEL　0947-44-0111
E-mail　ikejiri@jeans.ocn.ne.jp
URL　なし

川崎町立池尻小学校校長
辻　秀志
Tsuji Hideshi
「常に自分を高めようとする子どもを育てたい」

川崎町立池尻小学校
藤川和久
Fujikawa Kazuhisa
教務主任
「子どもに意欲的に学びへ向かう力を身に付けさせたい」

リントを学校独自に作成している。漢字と計算の練習を中心に、応用問題も載せる。また、どのクラスにも一定量の宿題を出させるために、家庭学習時間の目標を「学年×10分」と定めている。

こうした取り組みは、「教師の授業力部会」「児童の学ぶ力部会」「基盤の力部会」「家庭学習の充実部会」「条件・環境整備など部会」の五つの学力向上対策委員会で決定・改善する。学校全体として取り組めるよう、管理職を含めた全教師がいずれかの部会に属する。

「各部会では進捗や課題について話し合い、月1回開かれる全体会議で情報を共有します。部会があることで、異動してきた先生もすぐに取り組みに参加できます。そうした場で学校が目指す方向性を明確にし、先生方の意識をまとめることが、校長の役割だと考えています。学力調査の結果も私なりに整理・分析し、毎月発行する『校長室だより』で考えを先生方に伝えるようにしています」（辻校長）

「学力アップタイム」の漢字ドリルの時間。なぞり書き、そら書きなどを繰り返す。ドリルを宿題とする場合、既習漢字を「1字10回ずつノートに書く」というように指示する。基礎・基本の復習に重点を置くため、未習漢字は宿題としない

毎月1回、「学力アップタイム」に「漢字コンクール」を全学年で実施。1か月間にドリルで学習した漢字から10問が出題される。平均点の高いクラスは廊下に掲示する。
「子どもに点数を意識させ、学習意欲を高めることがねらいです」（藤川先生）

取り組み3年目で、成果は子どもの学力に現れてきた。10年度の「全国学力・学習状況調査」では、どの学年でも国語と算数の正答率が09年度と比べて向上した。授業態度が落ち着き、「学力アップタイム」に集中して意欲的に取り組む子どもも増えている。

また、自発的に大きな声で挨拶をしたり、校内清掃に積極的に参加したりするなど、生活態度にも改善が見られるという。

「生活習慣については引き続き声掛けが必要ですが、家庭学習習慣は定着しつつあります。自らすすんで意欲的に机に向かう子どもの育成を目指し、五つの部会を中心に全教師が一丸となって学力向上のPDCAサイクルを活性化したいと考えています。保護者や地域、町教委の協力を得ながら、学力向上のために出来ることはどんなことでもしていく覚悟です」（藤川先生）

学校&家庭 学び応援プロジェクト

授業でご活用いただける、キャリア教育に役立つ冊子『ジブンよススメ ワークブック』参加受付中!

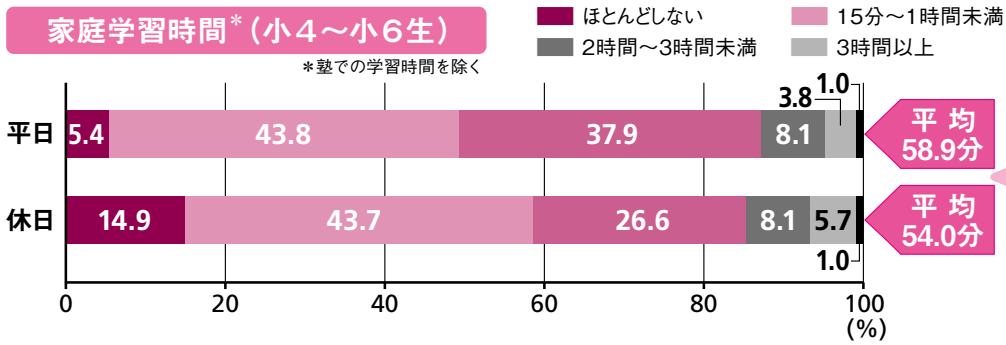
ベネッセは2007年度から「家庭学習に関する冊子」などを先生方やご家庭に無料で提供する「学び応援プロジェクト」を実施しております。2009年度は、のべ約8,200校から約125万冊ものお申し込みをいただきました。今回、①小学5・6年生の児童向けに、授業で使えるキャリア教育冊子「ジブンよススメワークブック2010」、②小学6年生の児童向けに、学び方のコツがわかる冊子「中学校に入って役立つ! 自宅でやっている3つのルール」を無料でご提供いたします。ただ今、参加受付中です。詳しくは下記の専用ホームページをご覧ください。ぜひ貴校の教育活動にお役立てください。

※応募多数の場合、在庫がなくなり次第終了となります。ご了承ください。

学校&家庭 学び応援プロジェクトホームページ http://www.benesse.co.jp/manabiouen/

子どもの1日の家庭学習時間は、平日、休日ともに1時間程度

家庭学習時間*（小4～小6生）

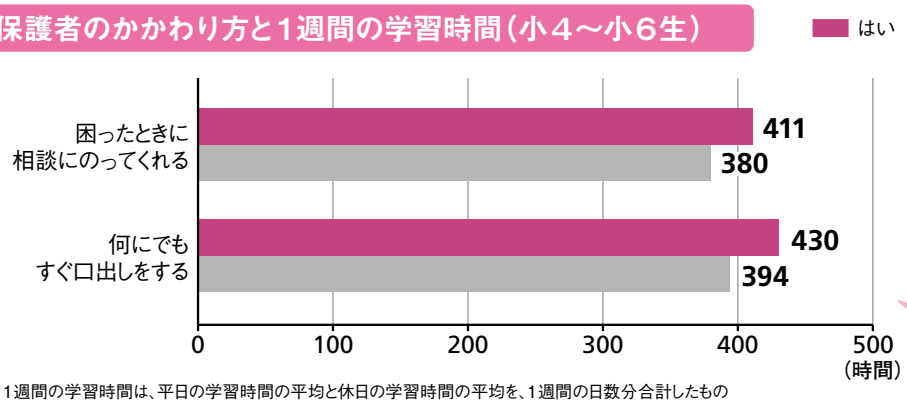


子どもの1日の家庭学習時間は、平均すると1時間程度。特に休日は、学習時間のばらつきが大きくなっている

出典：Benesse教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」
調査時期は2009年8月～10月、調査対象は全国の小学4年生～高校2年生（うち小学生は3,561人）、調査方法は学校通しの質問紙による自記式調査

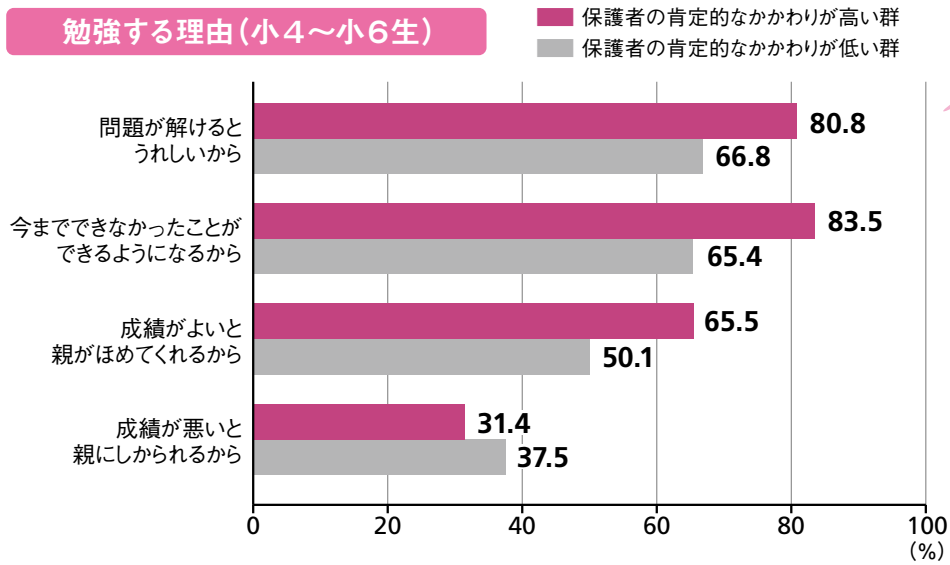
保護者の肯定的なかかわりが高い方が、学習する理由が前向き

保護者のかかわり方と1週間の学習時間（小4～小6生）



注）1週間の学習時間は、平日の学習時間の平均と休日の学習時間の平均を、1週間の日数分合計したもの

勉強する理由（小4～小6生）



保護者の子どもへのかかわりが強いと、たとえそれが子どもにとって否定的なものであっても、家庭学習時間は増える。ただし、肯定的なかかわりが高いほど、肯定的な理由で勉強をする子どもの割合が増える

注）「保護者の肯定的なかかわりが高い」とは、「勉強を教えてくれる」、「いいことをしたときにほめてくれる」、「悪いことをしたときにしかってくれる」、「困ったときに相談にのってくれる」、「あなたのことを大人として扱ってくれる」の項目に「当てはまる」と回答した割合が高いことを表す

出典：Benesse教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」
調査時期は2009年8月～10月、調査対象は全国の小学4年生～高校2年生（うち小学生は3,561人）、調査方法は学校通しの質問紙による自記式調査

上記の関連データはコチラ！
http://benesse.jp/berd/
＊「調査・研究データ」コーナーをご覧ください